

平成18年度事業計画

(2006年4月1日～2007年3月31日)

本年度における本会の主な事業計画は次のとおりである。

1. 機関誌の刊行

(1) 日本音響学会誌の刊行

本年度は、62巻4号～12号、63巻1号～3号の12冊を毎月1日(1号は12月25日)に発行し、会員に配付する。

1号当たりの平均ページ数は、本文80ページ、会告15ページ、広告10ページを予定する。

61巻の刊行分とAST誌26巻を併せてCD-ROMに収録して会員に配布する。

(2) Acoustical Science and Technology 誌の刊行

本年度は、Vol.27 No.3, 4, 5, 6, Vol.28 No.1, 2の6冊を1号当たり平均55ページとして、2006年5月、7月、9月、11月、2007年1月、3月の各1日に発行し、(独)科学技術振興機構が主催するJ-STAGEにオンラインジャーナルとして掲載して海外への普及も図るとともに、冊子を会員に配付する。

2. 研究発表会の開催

研究発表会を春と秋に開催し、そのつど講演論文集(CD-ROM)を発行する。

春季; 2006年3月14日～16日、東京都千代田区・日本大学理工学部において開催。
なお、アコースティック・テクノプラザを併催する。また、学生並びに学会発表会に新たに参加された方を対象に新人盛会と題する歓迎行事を実施する。

秋季; 2006年9月13日～15日、金沢市・金沢大学において開催する。

なお、春秋の研究発表会におけるポスターセッションのポスター発表の中から、分野ごとに優秀なポスター発表を選びポスター賞を贈呈する。

3. 特別企画の開催

(1) 春季研究発表会において「学会の電子化」をテーマとする特別企画を実施する。また、日本大学カザルスホールにおいて「音楽の夕べ カザルスホールの二つのオルガン」と題する講演と演奏会を実施する。

(2) 会員並びに一般市民を対象とする特別の催しを企画する。

4. 国際会議の開催・準備

第4回日米音響学会ジョイントミーティングに向けて諸準備を進め、2006年11月28日～12月2日の間、ハワイで開催する

5. 調査・研究の実施

(1) 研究会の開催

超音波、騒音・振動、電気音響、音声、聴覚、建築音響、音楽音響及び音響化学の8研究委員会をおき、音響に関する学理の解明、技術の普及のための定例の研究会を開催する。研究会は、原則として公開とする。

(2) 調査・研究委員会の開催

音響教育、アコースティック・イメージング、道路交通騒音及び建設工事騒音予測に関する4調査研究委員会をおき、それぞれの調査研究を実施する。その他学会が特に必要と認める調査・研究については、そのつど委員会を設けて作業を実施する。

(3) 音響規格の調査、作成

ア．日本工業規格(JIS)の5年毎の見直し、国際規格との整合化等に係わる諸作業を実施

イ．オーディオメータに関するJIS(JIS T 1201-1)改正のための委員会を組織し改正作業を実施する。

ウ．ISO/TC43(Acoustics) 国際規格の審議と原案調査作成

エ．IEC/TC29(Electroacoustics) 国際規格の審議と原案調査作成

6. 選 奨

(1) 功 績 賞

音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功労があり、その功績が顕著である者を選定して本賞を贈呈する。

(2) 佐藤論文賞

2005年1月から12月、及び2006年1月から12月までの2年間に日本音響学会誌（和文誌）並びに Acoustical Science and Technology（英文誌）に掲載された論文中から優秀なもの2編以内を選んで本賞を贈呈する。

(3) 粟屋 潔学術奨励賞

春季並びに秋季研究発表会で優れた研究成果を講演発表した新進の研究・技術者の中から各発表会ごとに3名以内、合わせて6名以内を選び本賞を贈呈する。

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する研究を発表した若手研究者から独創的と思われるものを毎年2名以内を選び本賞を贈呈する。

(5) 技術開発賞

音響に関する工業技術の進歩発展に貢献した本会賛助会員を対象に毎年3件以内を選んで本賞を贈呈する。

7. 音響学普及のための事業

(1) 「音響テクノロジーシリーズ」の編成作業を行い、順次刊行するほか、新たに「音響入門シリーズ」の出版を推進する。

(2) 音響技術講習会を年数回、計画実施する。

(3) シンポジウム、セミナー、講演会、見学会等を随時計画実施する。

8. 支部の活動

関西支部、東北支部、東海支部並びに九州支部において研究会、講演会、見学会等を随時実施する。なお、今年度から北陸支部を設立する。

9. 国際交流

国際音響学会(ICA)、国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席する。国際音響学会議(ICA)、国際騒音制御工学会議(INTER-NOISE)、西太平洋地区音響学会議(WESPAC)等の開催に協力するなど、国際交流に努める。

10. 学会運営の効率及び会員サービス向上のための電子化

学会の事務・運営の正確、迅速化を期すとともに、学会からの情報発信、情報共有等会員サービス向上を図るため、ネットワーク時代に即したハード・ソフトシステムの企画立案と導入の推進を行う。具体的には、投稿原稿の査読の電子化、会員の入会手続き等の電子化を計画し、準備が整い次第実施する。

11. 学会の将来計画

学会活動のあり方・会員サービス・組織と運営等に関する将来計画を学術委員会、企画委員会を軸に幅広く審議し、可能なものから実施する。なお、その一環として、学会活性化を目指し、研究発表会において分野横断的スペシャルセッション、特別企画、若手研究者・学生らの交歓会の開催などを実施する。